

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

・ 設置の趣旨および目的等について

当該学部は、主たる人材養成の目的を管理栄養士の養成におくこととして計画し、平成22年3月に管理栄養士養成施設の指定を受けた。そのほか栄養教諭一種免許状及び食品衛生管理者・食品衛生監視員がそれぞれ課程認定及び指定登録を受け、計画どおりの人材養成を展開できることになった。

新入生には、入学後のオリエンテーションを徹底しておこなった。学内で行うガイダンスの他に1泊2日の宿泊研修を実施した。この研修では、管理栄養士になるまでの過程やその役割などのセミナーを行い、学生一人ひとりの目的意識を高めることができた。この研修中に履修方法等についても細部にわたって説明を行った。入学者の目的意識は高く、今後の成長が期待される。

さらに、行動原理としての「対話のある大学」を具現化するため、「コミュニケーションサークル（CC）」を立ち上げた。CCは、教員とのコミュニケーションを通して、一人ひとりの学生が新たな環境に適応し、自発的に自分の将来に展望を持ち、目的意識を持って学生生活を送れるように支援することを目的としている。また、CCは、クラス担任制度を補完するもので、教員1人あたり6～7人の学生を担当し、2年次まで続けることにより、3年次以降の卒業研究を含めた少人数での専門的な学習・研究へと連結することをねらいとしている。上記の新入生研修会から、CC活動を開始している。

・ 入学者の受け入れについて

入学試験は、推薦入学試験1回、一般入学試験2回を計画どおり実施した。全体で志願者205人、入学者88人となり予想を超えるものとなった。成績が拮抗したほか歩留まり等の読みが困難だったため、入学定員よりやや多い結果となった。施設設備等は十分で受け入れに支障はない。次年度に向けては、大学入試センター試験利用入試を加え、引き続き入学者の確保に努めていくこととしている。

・ 教育課程について

管理栄養士養成施設指定申請に係る東北厚生局の指導過程において、専門科目の必修科目として「基礎栄養学実験（1単位）」1科目を追加し、科目内容の充実をはかっている。

教養教育科目において、文学部兼任教員担当予定科目が、当該教員の急な退職により開講が間に合わなかった科目がある。これについては、文学部において直ちに後任者の募集を行い選考中であり、就任後平成23年度に開講予定である。

・ 教員配置について

専任教員において、教授1名が諸準備のため1年早く就任することになったが、そのほかの変更はない。また、担当者未定の3科目については、専任教員が担当するた

め、専任教員採用等設置計画変更書を平成22年6月に提出することとしている。

- ・ 施設設備について
図書等を含め、計画どおり整備し供用している。

以上、開設して1ヶ月で十分な検証は難しいが、予定どおりの入学試験を実施し、明確な目的意識を持った入学者を受け入れることができたことより、栄養科学部は順当にスタートしたと判断している。今後このような状況を維持し、計画の教育内容を確実に実施するため、自己点検評価、FD活動などの充実を図っていく。